泊如竹の墓

【所　在　地】熊毛郡屋久島町安房 104 － 1
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 36 年８月 16 日

泊 如竹は永禄 12（1569）年，屋久島の安房に生まれた。幼名を市兵衛といい，安房の日蓮宗本仏寺に入って修行し，出家して日章と称した。やがて本能寺でさらに修行すべく京へ上った日章は，儒学者藤原惺窩にも師事し朱子学を学んだ。鹿児島に帰ると南浦文之の門に入り，名も如竹と改めた。母の死後，再び郷里を離れ，伊勢の藤堂高虎に仕えて藩の政治に功をあげたが，寛永７（1630）年帰郷した。

その後，琉球王の師や藩主島津光久の侍講となり，正保４（1647）年，78 歳のとき屋久島に帰り，安房に飲料水の水道をつくったり，農業の改良に努めたりしたが明暦元（1655）年没した。87 歳であった。

その間，桂庵玄樹の『家法倭点』の出版や，南浦文之点の『四書集註』を出版するなど朱子学に貢献した。